

横島干拓地の旧堤防の保全に関する研究

A study on preservation of old embankment for the reclamation in Yokoshima, Kumamoto

熊本大学大学院自然科学研究科環境土木工学専攻

波多江 萌

1. はじめに

干拓地とは、自然に出来た土地ではなく、昔から着々と、土地を積み重ねることで出来てきたものであり、現在の横島干拓地上に立ち現われた土地の形相には、これまでの横島の人々が積み重ねて来た労力の歴史が刻まれている。また、干拓地の旧堤防や堤防跡は、当時の陸地の最前線であったことを現在に伝える証拠である。本研究では、かつて干拓に貢献した旧堤防の遺産的価値を評価することで、干拓地の歴史的背景を後世に伝えることを目的とする。

2. 土木遺産の概念の整理

干拓地の歴史的背景を後世に伝える手段として、旧堤防を遺産としての保全していく可能性を示した。また、旧堤防が対象となる可能性が高い土木遺産の概念の整理を行なった。最後に、本研究において旧堤防を土木遺産と見なす場合に有用な土木遺産の考え方を明記した。本研究における土木遺産の考え方は以下の通りである。

- ①構造物だけでなく、その構造物が存在している土地から読み取れる歴史的背景を評価する。
- ②構造物単体だけではなく、システムとしても評価する。
- ③構造物の存在形態にとらわれず、その構造物の持つ意味内容を重視する。

3. 干拓地のシステムと歴史的背景

干拓地を構成する施設とその機能、さらに堤防の築造技術を示すことで、熊本県の近世における干拓地のシステムを示した。さらに、研究対象地である横島干拓地の歴史的背景を示した。干拓地の一つの特徴として、干拓とは一度行くと継

続的な開発を迫られるという半永久性の性質があり、これにより、堤防は鱗片状に積み重なりながら、連続して接続されていった。

4. 横島干拓地旧堤防の保全に関する考察

歴代干拓区域、つまり歴代の干拓堤防跡と現在の地形図を見比べると、旧堤防跡と現在の道路網の大半が一致する。現地を確認すると、道路の側面に石垣が一部残存していることから、旧堤防が道路として現在でも使用されていることが分かる。現代空間の中で利用されている旧干拓堤防の現状を現地踏査によって把握した(表1)。その上で、旧堤防が道路になった背景を明らかにした。

1) 道路化した旧堤防の成り立ち

①現役の堤防であり、堤防の役割を果たしている、②前面に新しい干拓地ができて、堤防としての機能がなくなる、③少しずつ、時代とともに、地域の人(特に農閑期の農民)によって削平されていく、④補修・補強されながら、道幅が拡幅され、現在の形態になった。

2) 資源を無駄にしない仕組み

旧堤防の削られた部分(石・土)は、資源の有効活用のために、大部分は新干拓地築造の際の材料に再利用されたという。このように資源を無駄にしない仕組みは、本来は資源が存在しない干拓地において、干拓の半永久的な開発を存続させるために必要なことであり、資源を有効に活用するという古人の考えが含まれたものであった。

5. おわりに

最後に、旧堤防の保全について、文化的景観の重要性和地域住民の理解の点から考察した。

表1 旧堤防の現存状態による分類

	a. 完全道路化：(削平済み) 地図上では、旧堤防跡と一致しているが、完全に道路となっており、旧堤防であったことが分からない。
	b. 半道路化：(削平済み) 道路として使用されているが、一部、旧堤防部分が露出し、かつて堤防であったことが分かる。
	c. 保存：(削平なし) 完全に堤防の形を残して残存しており、モニュメントとして残っている。道路としては使用されていない。
	d. 現役：(削平なし) 現在も海域(一部は川)との境界に存在し、本来の堤防として機能している。水域と直接、接しているもの。



図1 横島干拓地上の旧堤防の現存状態

(国土地理院1/25000 地形図にコ加筆)